

逃げ去りにケリ

技術営業部 佐藤 弘

大形チドリのケリが、新潟市近郊の水田地帯で繁殖を始めて30年以上になるだろうか。私の生活圏でも繁殖しているらしいペアが二組いたのだが、ここ数年姿を見せない。その理由には心当たりがある。田んぼをとりまく水路や農道などに生える雑草を、病害虫防除の農薬で枯らすようになったからだと思う。青々とした稲と、いつまでも枯れたままの赤茶けた草むらの対比が異様だ。

飛び回るハエはうっとうしくて敵わないが、通りすがりにケリにまとわりつかれたら身の不運、やかましいのなんの。名前の通り「キリッキリッ」とけたたましく鳴いて頭上で旋回する。それで威嚇のつもりだろうが、まるで威嚇になっていない。むしろ、ここに巣があるヒナがいると叫び回っているも同然だ。その上、ヒナは隠れるどころか勝手に動き回る。ダメだこりゃ、こんなに無防備な種では隆盛は望めそうもない。実際、兵庫県三田市で見た例では、三羽連れ歩いていた幼鳥がいつの間にか一羽になっていた。

三田で暮らした七階建ての立体長屋は日当たり抜群で、太陽熱がコンクリート躯体に蓄熱されるから真冬でも暖房いらずだった。その建物からの放熱をケリはうまく利用し、冬の間日没から夜明けまで、裏の田んぼを畔に30羽ほどが群れて暖をとっているように見えた。鳥は赤外線が見えるというから、サーモグラフィ映像で建物がひときわ熱を持っていることを学んだのかもしれない。畔入りしてしばらくの時間それぞれが小声でグゼツている様子が、一日の行動を反省しているようで何とも人間くさく思えた。

さて、農薬とは言いながら、実は毒性を利用するのだから本質は農毒だと識者は言う。その巻きぞえでトンボが明らかに少なくなり、一斉に田んぼに水を張った晩の、カエルの待ってましたの大合唱がまばらになった。昔アレルギーやアトピーの子は居なかったし、若くしてガンを患う人も今ほどではなかったと思う。

この先も食の安全は本当に大丈夫なのだろうか。

ケリにけりをつけられては、まったく洒落にもならない。

【追記】この五月半ばに県立図書館へ行くと、トラフズクの畔が職員の手作りと分かる柵で囲われ立入禁止の表示があった。一肌脱いだ職員の頑張りに脱帽。これでシラカシは枯れず、トラフの安息は保たれ、図書館は植え替えの出費を防ぐ「三方一両得」。

本年4月の熊本地方を震源とした大きな地震により被災された方々に心よりお見舞いを申し上げます。一日も早い復興と平常を取り戻せますことを祈念致しております。

チャンスの神様・女神様

お客さま、こんにちは。ついこの間お正月を迎えたと思つたらもう半年が過ぎようとしております。まごまごしているうちに夏が過ぎ、秋が過ぎ、冬が来て、そしてまた年の瀬がー！と、妙に焦りを感じております。この時の過ぎゆく感覚が毎年加速していくように思うのは、やはり・・・(汗)

さて、話は変わりますが、「**チャンスの神様には前髪しかない**」という言葉が聞かれたことがあると思ひます。この神様、一体どういう風貌でどこから来ているのかと調べたところ、ギリシャ神話中の「カイロス」という神様のことのように、この神様の髪の毛が前しかなくて後ろ頭は禿げている(カイロスはギリシャ語で「チャンス」「時刻」を表す)ことから、チャンスは後から掴めない↓迷つてばかりいるとチャンスを逃すよ、という意味合いに使われるようになったようです。また「**チャンスの女神には前髪しかない**」という言葉い方もありますが、これもギリシャ神話中のフォルトゥナ(テュケー)という運命の女神のこととありました。この他に似たような言葉としては「逃した魚は大きい」「後の祭り」という言葉があります。これらはどちらかと言うと機を逸した後に使われることが多いでしょうが、そうならないようにしてね、との思いを込めて使われることもあります。

あれこれ考えすぎてしまうと決断が鈍り「あの時こうしておけば良かった」と後悔することがあります。そんな時は「そもそも何が元で」ということに戻つて考えてみると、道筋が見えて決断できることがあります。それでも右か左か迷つたときは、「エイやー！」で選んでみる。案外それが功を奏することもあります。一番まずいのは「考えるだけで行動しない」ことです。ところが中にはチャンスの神様かな？と思つて掴んでみたところがそうではなかった、なんてことがあつたりして自己嫌悪に陥つたりすることも・・・。けれどそういう時は速やかに手放して捲土重来、幸運の女神がほほ笑むまでチャレンジし続けるタフさが必要なのかなと思うこの頃です。

お客様
元気通信
むげ





“総選挙”

サポート・新規事業PJ 山本知男

今どきは梅雨の真っ最中でジメジメと蒸し暑い日が続いているはずですが、今年は雨が少なく日差しが熱い。そんな中、ここ新潟はもっと熱くなってました。そうです、AKBの総選挙がありました。

新潟に5万人ほど集まったとか、ホテルは新潟近郊どころか長岡辺りまで満室とか、経済効果は約15億円ほどとか・・・、しかしファンの人達を見てみると割とオジサンが多いのにはちょっとビックリ。結構頭の薄くなったオジサン達が熱狂しているもんだなあ・・・、私も混じっても恥ずかしくないかな・・・、いや、やっぱり恥ずかしい、無理！。でもせっかくだだったので、ちょっとテレビ見てましたが、今のアイドル達はみんな同じ顔に見えるのは私だけ？昔のアイドルはもっと個性があった気がします。ま、同じ服装てたりするから尚更なんでしょうが。

さて総選挙と言えば今は参議院議員選挙や東京都知事選挙の話題になるわけで、これも昔の議員さん達は個性あったなあと感じます。昔は何かやってくれそうな、期待させてくれる人達がいました。

今は個人と言うより数集めて組織で動く感じで、でも期待させてくれる政党もなく、誰を選んだら良いか迷うばかりです。世の中全体が個人より組織と言う方向になっているからでしょうか。

昔は良かったなんて言っていると、私も年取ったなあと思ってしまうのですが、先行き不安な感じを持ってしまうので、何か払拭したいもんです。そんな事で世の中のオジサン達はAKBにハマって行くのでしょうか？



◆ちょっと豆知識◆ その28

「ネオクリーンのカビ臭発生リスク」

技術営業部 部長 成田 護 (mamoru@shinyo.co.jp)

ここ最近、「4-VG」にすっかり主役の座？を奪われて話題にのぼることの少なくなったカビ臭の原因物質 TCA。各種講習会等で散々聞いた話かとは思いますがおさらいしますと、木質（リグニン）に塩素が作用して前駆物質の TCP となり、そこにカビ等が作用して TCA が生成します。

人間に対する TCA の閾値が 1.7ppt(1.7ng/L)と極めて微量であることから、汚染を避ける理由で「原因となる塩素系薬剤は使わない」流れが急速に広がりました。

しかし一方、次亜塩素酸ナトリウム（以下『次亜ソ』）を筆頭に、塩素系の殺菌剤は、廉価でしかも良く効くことから、その代替薬剤が強く望まれていましたし、恐らく現在でも望まれていると感じます。

当社で取り扱っている「ネオクリーン」も塩素系の薬剤（主剤は次亜塩素酸カルシウム）です。過去に醸造協会の技術セミナーで発表させていただきましたが、ネオクリーンは次亜ソとはかなり異なった挙動を示します。

今回、ネオクリーンのメーカーとの共同研究で得られた、まさに「届きたてほやほや」の知見をご紹介します。

次亜ソとネオクリーンの有効塩素濃度を揃えて杉材を浸漬し、TCA の前駆物質である TCP の生成量を比較したところ、次亜ソは高濃度であったのに対し、ネオクリーンは対照である水とほぼ変わらないという結果でした。

実は過去に、当社独自で同様のテストを行っていたのですが、当時ご協力いただいていた酒類総研が TCP や TCA の分析業務を取りやめたこと、また、ご指導をいただいていた先生が酒類総研から鑑定官室に異動になったことから、研究が立ち行かなくなりました。

その時も、次亜ソだと TCP が生成するのに対し、ネオクリーンだと「TCP を検出できない」という結果を得ていました。

この結果をもって「だからネオクリーンはカビ臭発生リスクが低い」という結論を導くことは早急に過ぎますが、TCA が取りざたされるより以前に、およそ2年にわたり、木質の麹室内部に高頻度でネオクリーンを散布していたお蔵の製品で一切 TCA が検出されなかったという実例もあることから、「夢の薬剤」である可能性は捨てきれません。

今回、期せずして新たに研究体制が構築できたことから、今後さらなる知見を積み重ねて、ネオクリーンの有用性を明らかにしていきたいと思ひますし、今後の研究の進展は、機会を改めて詳細をご報告したいと思ひます。

【参考文献】岩田ら；清酒中のカビ臭汚染経路の解明とその防止法，醸協，102，90-97(2007)



エッセイ

★絶滅危惧種になってしまった★

生産部 島貫 修一

絶滅危惧種と言えばクロマグロにウナギにラッコにパンダにヤマトナデシコ？等が思い浮かぶが、もう一つ身近なものがあ。それはマニュアル車（MT車）。

足は2本なのにペダルが3つ。発進時は微妙な半クラッチをしないとエンスト（古代の言葉）するし、変速時には速度計と回転計を見ながら、左手でレバー両足でペダルをタイミング良く操作しないと、加速も減速もできないあのMT車。

技術の進歩は多くの分野で人間に楽をさせてきた。家庭内でも多くの生活家電が家事を代行して主婦（主夫も）を楽にさせている。同じ考えで車を移動の道具としてみれば、オートマチック車（AT車）が進化した車で、MT車は過去の遺物になってしまう。確かに安全に快適に楽に移動できればそれはそれでよしだが、その道具を操る楽しさも欲しい。

今乗っている車はS社の1300のMT車。運転に手間がかかるがそれを面倒とか不便とは感じておらず、むしろ自分の意志で思いのままに走らせる楽しさを味わっている。30代の頃にジムカーナで腕を磨いていたおかげで、シフトアップ・ダウンしながら峠道を走り抜けることができる。更にAT車と比べれば車両価格も整備費も安いし、アクセルとブレーキの踏み間違えによる暴走も起こしにくい。それなのに国産乗用車の大部分はAT車で、MT車はイリオモテ山猫並みに少ない。メーカーにも採算という都合があるけど、たとえば数か月待ちの受注生産でもかまわないから、MT車を選択できる体制を作れないだろうか。

自動運転の時代がすぐそこまで迫っており、自動運転ができないMT車に残されている時間は少ない。だからこそ今のうちに楽しんでおきたい。

